

番組概要

鳥取・島根両県にまたがる中海は、地理的条件もあって、この半世紀余り時代に揺り動かされてきました。

中海の県境をめぐる鳥取・島根両県の思惑の違い、国の大型公共工事の実施、それに伴う水質悪化や自然環境の変化、そうした中で生まれたのが「泳げる中海」を象徴する中海オープンウォータースイムの実現や中海の湖岸を手分けして清掃する中海アダプトプログラムなど行政に頼らない住民主体による市民活動でした。

揺れる中海の変遷を振り返りながら、その時代の節目において市民や地域メディアはどう関わり、どう動いたのか、そして事態はどう変わったのか、当時の映像と関係者の証言で明らかにしていきます。そして、中海の環境を活かした新たな未来を考えます。

2001年から毎月1本放送する30分番組「中海物語」の220本余りに及ぶ取材映像を基に新たに追加取材し60分にまとめ、2019年11月に、開局30周年記念特別番組として放送しました。



ギャラクシー賞とは

1963年に放送批評懇談会により日本の放送文化の質的な向上を願って創設され、テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門において、作品、制作者、関係者に贈られる歴史ある賞です。

全国規模の番組コンクールで、権威ある賞の一つとされています。

特に「報道活動部門」は、放送における報道活動のあり方を議論し、優れた活動に光をあてるとともに、とくに地域の放送ジャーナリズムの活性化を支援してこうとするものです。

取材協力 新日本海新聞社

制作協力 SVS 山陰ビデオシステム

製作著作



中海テレビ放送

中海再生への歩み
～市民とメディアはどう関わったのか～



第57回 ギャラクシー賞 報道活動部門 大賞受賞番組

中海テレビ放送 開局30周年記念特別番組

中海再生への歩み

～市民と地域メディアはどう関わったのか～



CHUKAI CABLE TELEVISION
SYSTEM OPERATOR
株式会社 中海テレビ放送

中海のうたプロモーション動画 出演者

Cond. 新倉健 Pf. 山城裕子

米子管弦楽団

VI1 三保友史 (Con.Mas)	VI2 秋鹿嘉雄	神庭友里恵	原田友一郎	杉山清香	Tb 伊藤修
會澤直之	岡野桃子	玉崎章子	持田真綾	Fg 桑名康二	楠見公義
足立一真	木山典子	山梨豪彦	CB 神庭公祐	本田祐美子	隅田誠
井口千春	佐久間篤子	山梨友美	神庭智子	Hr 穂山京子	Perc 井上雄介
石井丈士	鈴木真百合	保手浜裕之	FI 稲田真司	穂山純果	武部良枝
岩本いづみ	廣田淳子	Vc 井上洋子	野口勇	老松尚子	田中美有
梅林迪子	廣江梢	梅谷彩子	Ob 井上晃希	小椋智恵子	山口研一
奥泉真璃	神庭美月	太田純歌	入澤裕美	Tp 青井洋一	
劉葉子	Vla 青笹有紀	中岡実乃里	Cl 足立珠希	伊藤由美	

コーラス (順不同)

荒川豊子	磯村恵子	落合瑛子	奥谷浅枝	石原道子	島田弘子	本池美和	山陰少年少女合唱団
丸山美穂子	岩田喜久子	立川安子	生田育枝	板由子	清水佳子	三浦賀代子	リトルフェニックス
染川玲子	岡田清	菱谷哲郎	景山千恵子	江原一夫	高橋理津子	荒川政恵	池田翔輝
三保ミエ	岸本秀雄	森本輝子	角田章	大田道夫	内藤昭	吉岡梨紗	稲田灯華
坂田知津子	竹下雅春	山本静子	來間進	大森幸子	内藤和美	新宅亜紀	本池佳乃
松田陽子	福間明子	山本義憲	鈴木京子	緒形ふさえ	永柴幸子	引野真美	三浦泰斗
勝部愛子	村田紀世江	遠藤佳子	関山明子	恩田博充	永見光子	山本恵里奈	宮本萌
勝部民子	渡部みさ江	徳本博子	田中美代子	片山公子	永見陽子	青木理恵	荒川望咲
勝部由子	森林和枝	山本澄子	加藤幾子	中村よほ子	林原加奈子	久保田陸斗	久保田陸斗
北尾佐登子	柿田信子	大久保美智子	渡辺功	加藤洋子	野田恵子	亀井あかね	吉岡凜
佐々木幹法	藤原瑠美子	田内綾子	藤原實夫	茅野順子	長谷川英子	定岡和美	白石陸
富谷美恵子	田口悦子	貴名節子	内田幸子	川中美紀子	福井恵美子	高山園子	新宅二卓
飯橋俊子	横田政子	長谷川村子	平林まり子	木村多賀子	三浦希代子	マジョルカ武田	今出智子
福島幸男	長尾真由美	林恵子	足立千鶴子	客本のりよ	安山敏子	向井登志彦	引野真杏
松岡教子	朝野芳男	乾美恵	角百代	來間光子	山根悦子	岡田康秀	山本彩七
渡部久実	阿部香織	井山くに	竹内のみ子	小谷三千子	吉田和子		
浅田千佐枝	荒金穂高	淀川紀美子	花岡律子	後藤昭江	鷲見郁子		
磯村和子	岩永久美子	松本規子	矢田和子	齊藤香奈	稲田陽子		

エキストラ出演 沖夕子 田中偉央利 木住楓太 橋本淳史 高橋宏次

協力

ガイナール鳥取 U-18

小山優	丹羽大地	内田大貴	水口耕輔	坂本敬	池本晴	坂本玲	松尾光羅	藤野快斗	荒木駿汰
河野歩夢	奥元大晴	佐伯蓮	曾我海斗	神田翔哉	石上將馬	朝倉爽	井崎秋貴	影山壘飛	杉山臣
阪口颯汰	田村翔太	山田健人	小林海翔	木村峻琉	高塚星弥	野津真聖	長光晃輝	シュレスタ明澄	

米子松蔭高校サッカー部

濱本颯斗	中井梨生	吉田凌	山村基八	榎本康太	山本新	笠井孝太郎	杉原圭悟	大田真矢	山本隆矢
永島雅浩	潘曾	生田隼規	長谷川大樹	野津優希	舟越統麻	古山慈恋	佐藤飛磨	濱田悠真	中田開誠
杉山臣	阪口颯汰	田村翔太	山田健人	小林海翔	木村峻琉	高塚星弥	野津真聖	長光晃輝	

熱田修二 水戸翔一 市村保 高橋悠 石川昌樹 上場章裕 小谷幸久 嘉賀啓介 嘉賀恭子

アクティブプロ 小林慎一 サウンドオブアース 景井洋司 クラヴィーア 日野博 アートピアノ社 井土和幸 井土洋志

山陰ノムラ 戸田広毅 門脇謙二 九重谷銃砲火薬店 九重谷隆 境界具販売所 門脇京子 アイカ楽器店 穂鹿嘉雄

SC 鳥取 塚野真樹 セスナ空撮 加藤正雄 米子市・米子市教育委員会

中海テレビ放送

加藤典裕	鶴木俊文	古川重樹	野々村正仁	三浦健吾	上田和泉	横木俊司	西林延峰	永田英彦	小椋一弘
寺崎貴晋	堀尚俊	柳沢順子	日高由史	小林洋介	永見陽平	石倉翼	森田なつ紀	鷲見慶子	瀬尾和哉
原綾也佳	岩本泰平	小柳優	柴宗摩	前田和美	奥田逸美	植木美加理	石和田希	上西真里那	

山陰ビデオシステム

高橋宏之	高橋由喜子	本池俊介	山本芳朗	上田敏之	口田夏樹	加藤雅子	浅野大介	奥田賢	田中寛進
松本博満	澤藤伸	足立哲也	鷲見衆	鷲見亜弓	杉村良平	村本海	中本大輔	松谷大海	上田敬宏
杉谷俊洋	宇佐美孝太								

サテライトコミュニケーションズネットワーク

中尾雅彦	白間大介	足立正樹	岡田知巳	野口かおり	二見弘武	八田美幸	谷口拓也	細田正崇	加藤雄太
吉川耕平	木村雅人	森下美奈子	青戸謙介	本田大和	藤江猛史	尾沢玲子	龍門さくら	小椋千秋	飯田敦
松原有希									

中海のうたプロモーション動画制作委員会

委員長 高橋孝之

新倉健 原礼子 隅田誠 神庭公祐 マジョルカ武田 岡雄一 加藤典裕 本池俊介 上田敏之

プロデューサー 高橋孝之

製作著作：サテライトコミュニケーションズネットワーク 山陰ビデオシステム



中海のうた

あの頃、人は中海とともに生きていた・・・自然豊かな情景が広がっていた・・・
「あの頃の中海」への思いを綴った歌が、多くの人々の協力によって生まれました。

母なる汽水湖「中海」。
 かつては自然豊かで、人々の憩いの場でした。
 もう一度、あの頃の中海を見つめ、郷土の象徴として讃えよう。
 そんな思いが込められた2つの楽曲が生まれました。



「あの頃の中海」を歌い継いでいく。

10年前に書かれた2つの詞。
 そこには、中海とともに生きていた人々の心情。中海の美しい情景が記されていました。
 この詞を、多くの人たちに歌ってもらいたい。……そんな思いから楽曲制作がはじまりました。
 2017年 地元のミュージシャンに作曲を依頼。翌年にはオーケストラのための編曲に4ヶ月を費やし
 2019年4月に「中海情景」「思い出の中海」は完成しました。

レコーディングに参加していただける合唱団と楽団を探し、メンバーの一般公募も行いました。
 趣旨に共感した人の輪はどんどん広がり、総勢150名以上のオーケストラと合唱団が結成されました。
 鳥取大学名誉教授 新倉健氏の指揮、世界で活躍するピアニスト山城裕子さん、米子管弦楽団の演奏で、
 コーラスは、地元の合唱団を中心とする有志の皆さんです。
 2019年7月7日の米子市公会堂でのレコーディングを経て、10月6日には、米子城跡で中海、米子市街を見渡しながらの演奏が実現しました。

この歌は「母なる海 中海」への賛歌。
 「中海の歌」を歌うたびに思い描いてください。自然が美しく、人々が集い、豊かな恵みがあった頃の中海を……そして、皆さんのまわりの人たちに教えてあげてください。
 この歌が、多くの人によって歌い継がれていくことで「中海」を未来へつないでいきたい。
 それが私たちの願いです。

中海情景
 作詞 高橋理津子 作曲 マジヨルカ武田
 編曲 新倉健

緑豊かな城山を
 登ればやさしく待つように
 眼下に青く光る海
 永遠に永遠に温かく
 迎えてくれる故郷は
 海も空も美しい
 ああ青春の中の海

誰も知らない月の夜に
 波間に銀の橋かけて
 風のささやき渡る海
 そっとそっと清らかに
 生さよと伝えてくれたのは
 ある夜の夢の物語
 ああ思い出の中の海

凍れる冬も深々と
 冷たい雪を受け止めて
 静かに春の時を待つ
 みんなみんな強くあれ
 何も語りぬ海なのに
 心に深く刻まれた
 ああ憧れの中海

すがた凛々しい大山も
 夕日に映えて美しい
 錦の海に恋をする
 自然が自然であるように
 この地に生まれた幸せを
 幼い頃より知っていた
 ああ麗しき中海

思い出の中海
 作詞 高橋理津子 作曲 マジヨルカ武田
 編曲 新倉健

心とけ込む黄昏は
 今日も来ている中の海
 夕日に映えて美しい
 錦の海に恋をした

水辺に楽しいハゼの群
 友と遊ぶ中の海
 この地に生まれた幸せを
 幼い頃から知っていた

月夜に銀の橋かけて
 夢を届ける中の海
 変わらぬ豊かな優しさに
 永久の願いは清りなれ

凍れる冬は深々と
 全てを飲み込む中の海
 みんなみんな強くあれ
 心を育ててくれた中海



Youtube 中海のうたプロモーション
 動画制作委員会チャンネルにて
 「中海のうた」の動画公開中！

第39回

日本のジャーナリズムの 広がりを問う中海テレビ大賞受賞

今年のギャラクシー賞は
公式YouTubeで発表

例年6月、7月は、放送文化基金賞、ギャラクシー賞、向田邦子賞、電通広告賞など、優れた放送番組やCMを顕彰するアワードの贈賞式が続くのが恒例だ。

ところが今年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、さまざまなイベントが中止や延期に追い込まれている。そのなかで、これらのアワードも、その顕彰の方法については検討を余儀なくされている。緊急事態宣言が解除されたとはいっても、自粛ムードが依然として続くなかで、「お祝い」のイベントではあるものの、何といっても関係者の安全が第一。イベントを開催すれば、「三密」を避けることが難しいのが、主催者側にとっての最重要課題となる。

私が理事長を務めるNPO法人放送批評懇談会では、1963年にギャラクシー賞を設け、毎年、優れた放送番組、活動を顕彰してきた。今年で第57回を迎えるギャラクシー賞だが、現在、テレビ、ラジオ、CM、そして、報道活動の4部門があり、毎年4月1日から翌年3月末までに放送されたものを審査対象としてきた。

例年なら6月初旬に、都内のホテルで、贈賞式、それに続いて、お祝いの宴を企画・開催するのが恒例だが、今年はそういうわけにはいかなかった。ギャラクシー賞の審査は、テレビ選奨委員会、ラジオ選奨委員会、CM選奨委員会、そして、報道活動選奨委員会という4つの選奨委員会の専権事項である。運営組織であるNPO法人放送批評懇談会の総責任者である私も、その審査過程には、一切関与できない仕

組みになっている。ただ、その発表の場である贈賞式が安全に行われることについての最終的な責任は、私にある。

苦渋の選択として決断したのは、無観客での発表である。

7月2日午後3時、放送批評懇談会の公式YouTubeチャンネルで、大賞以下、各賞の受賞を、約30分をかけ、順次発表することとした。もちろん、こういった発表の形態を取るのには、57年の歴史のなかでも初めてのことだ。

例年であれば、ギャラクシー賞の大賞発表は、入賞作品の関係者が集まる贈呈式の間で行われる。入賞者にお集まりいただいているその場で、大賞を発表。ご登壇いただき、表彰状、トロフィーの贈賞を行うのが恒例となっている。しかし、今年は8月に受賞者のみにお集まりいただき、表彰状、トロフィーをお渡しすることとした。

初めてケーブルテレビが大賞に

その選奨結果がどのようになったのかをお知りになりたい本誌読者も多いかも知れないが、第57回ギャラクシー賞の各部門の受賞作品については、本欄では各部門の大賞・優秀賞の作品名だけを列挙することとし、その受賞理由や、その他の受賞については、放送批評懇談会のホームページをご覧いただきたい。その上で、本誌読者向けに、今回のギャラクシー賞の受賞の歴史的な意味について解説しておきたい。

今回、報道活動部門で大賞を受賞したのは、中海テレビ放送の『中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか』

か』であった。

57年続くギャラクシー賞の歴史において、ケーブルテレビの番組が、ギャラクシー賞の大賞を受賞するのは初めてのこと。それも報道活動部門での受賞は、ケーブルテレビが報道機関として、地道な活動を続けていることを、第三者が評価したことを意味する。

本誌読者にとっては周知の通り、日本でケーブルテレビが登場したのは、テレビ放送が開始されてわずか2年後の1955年。群馬県伊香保町に、NHKが地上テレビ放送の難視聴対策の共聴施設として設置されたのが最初とされている。その後、ケーブルテレビが自ら番組制作を手がけ、自主チャンネルで放送するところも出てくるが、日本経済の高度成長を追い風に、急成長を続ける地上テレビ放送の番組と、制作に投下できる費用も、完成した番組のクオリティも、その違いは明らかであった。

1980年代、日本ではニューメディア・ブームが起り、地域情報化の担い手としてケーブルテレビに注目が集まった。県庁所在地の自治体はもちろん、それ以外の中規模都市でも、多チャンネルを売りにする都市型ケーブルテレビの開局が続いた。

今回、大賞を受賞した中海テレビ放送も、このニューメディア・ブームのなかで、1989年に鳥取県米子市に開局したケーブルテレビ局である。ただ、他のケーブルテレビ局と異なるのは、「地域のメディア」としての活動を重視してきたところである。開局当初から自主制作チャンネルに力を入れた経営を行ってきたことで、住民参加型チャンネルであるパブリックアクセスを早々に立ち上げる一方で、制作部門、特に地域のニュース取材に、スタッフを厚く配置し

■第57回ギャラクシー賞 入賞作品一覧(2019年4月1日～2020年3月31日)

	受賞作	事業者
報道活動部門		
大賞	中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～	中海テレビ放送
優秀賞	キャンペーン報道「用水路事故をなくす」	日本放送協会
	ヤジと民主主義～警察が排除するもの～	北海道放送
テレビ部門		
大賞	チャンネル4「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」	テレビ信州
優秀賞	NHKスペシャル「日本人と天草」	日本放送協会
	ウルトラハイパーハードボイルドグルメレポート	テレビ東京
	俺の話は長い	日本テレビ放送網 オフィスフレッシュ
ラジオ部門		
大賞	J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION ～STORIES OF OKINAWA～	J-WAVE
優秀賞	佐藤旬子と板東道生のとなりのラジオ	四国放送
	あなたと見た風景～目の見えない初江さんの春夏秋冬～	青森放送
	加来耕三が潮川で大河ドラマをつくってみたい 超拡大放送尺22倍 SP	RKB毎日放送
CM部門		
大賞	カネボウ化粧品 カネボウ/KANEBO シリーズ「I HOPE.」	カネボウ化粧品 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER
優秀賞	日本コカ・コーラ コカ・コーラ 自動販売機 シリーズ「笑顔を、ここから。」	日本コカ・コーラ 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER
	東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「見えない障害と生きる。」	東海テレビ放送 電通 東北新社
	三井住友カード 企業 シリーズ「Thinking Man篇」2話・3話	三井住友カード 電通 TUGBOAT 東北新社
マイベストTV賞 第14回グランプリ	ドラマ24「きのう何食べた?」	テレビ東京 松竹 「きのう何食べた?」製作委員会
特別賞	「ゲゲゲの鬼太郎」テレビアニメ化50周年記念・第6期	フジテレビジョン 読売広告社 東映アニメーション
フロンティア賞	神田伯山ティービー	冬夏
志賀信夫賞	橋本 実	
ラジオ部門 DJパーソナリティ賞	爆笑問題	
個人賞	伊藤沙莉	

ている。そんなこともあって、地元の自治体等の記者クラブにも加盟。時には、鳥取市の県庁内にある知事室と米子のスタジオとを衛星回線で結んで、米子市民の声を、直接、知事にぶつけるといった刺激的な政治番組も企画された。

そのような日ごろの活動もあって、NHK放送文化研究所がこの地域で行なった意識調査では、地元自治体の選挙報道において、NHKのニュースよりも、中海テレビ放送の自主制作チャンネルが放送するニュースの方が見られているという結果も出ている。

自主制作コンテンツのパワーが 地上波の水準をしのぐまでに

今回、ギャラクシー賞報道活動部門で大賞を受賞したのは、中海テレビ放送が

キャンペーンという形で、地元のアイデンティティともいえる汽水湖「中海」の環境改善を提起。メディアと地域住民が20年にわたって力を合わせることで、一時期は、悪臭を放ち、汚れた湖だった中海を、人が泳げるまでに再生した一連の活動に対してである。

地域の宝である湖の再生を牽引した、その報道活動への顕彰であった。

半世紀を超えるギャラクシー賞の歴史のなかで、地上放送局からエントリーされた報道活動を抑えて、ケーブルテレビ局である中海テレビ放送の一連の活動が大賞を受賞したことは、ケーブルテレビの報道活動、ひいては、ケーブルテレビの自主制作番組



報道活動部門で大賞を受賞した、中海テレビ放送の『中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか』
写真提供:中海テレビ放送



音好宏 OTO YOSHIHIRO 上智大学 文学部 新聞学科教授
1961年生まれ。上智大学院博士課程修了後、1990年から日本民間放送連盟研究所勤務。上智大助教授、コロンビア大客員研究員などを経て、2007年から現職。専門はメディア論、情報社会論。多チャンネル放送研究所所長 兼 主任研究員を務める。

日本海新聞

読者の広場



メディアの世界に身を置くようになって半世紀が近くなった。日本海テレビ時代はほとんどを報道畑で過ごしながら、ドキュメンタリーに挑戦する機会に恵まれた。在職中に『クラウドディアからの手紙』など25本の作品を全国放送す

中海テレビ放送特別顧問

古川 重樹

ドキュメンタリーが問い掛けるもの ギャラクシー大賞「中海再生への歩み」①

どう描いてきたのか」具体的作品を例にシリーズで振り返ってみたい。

7月2日午後3時過ぎ、米子市河崎の中海テレビ放送本社内の大型テレビ画面の前で、審査結果の発表を待っていた社員から割れるような拍手と歓声が沸き起った。全

ることが出来たのは私の財産国で最も権威ある賞とされて当社だけだった。その中から第57回ギャラクシー賞報道大賞1本が選ばれる(他に優秀賞2本、選奨3本)。

制作部員の指導をしながら自らドキュメンタリー制作に当たっている。そこで、私が一番組制作に当たって「時代と人」に決まらぬ瞬間だった。心の震えが09年、「鳥取方式の校庭芝

庭が土のグラウンドから緑の芝生に生まれ変わった。5年余りの地道な取材活動が評価されたのだ。

一方「中海再生への歩み」は、中海テレビ放送19年間の『中海物語』の映像がベースになっている。さらに、この作品も行政に頼らず市民と地域メディアが歩調を合わせて地域課題に目を向け、解決に向けて取り組む姿を丹念に描いたものだ。

止まらなかった。コロナ禍で東京での贈賞式が出来ず、審査結果がYouTubeで発動部門「大賞」を受賞したことがあった。行政や業者に頼らざる学校関係者ら利用者自身で苗を植えて管理する「鳥取方式」はメディアを通して多くの間に全国各地へ広がった。(つづく)

「芝生」と「中海」。テーマや時代背景や取材方法は異なるが、二つの番組に共通していたのはメディアが地域の人の声に耳を傾け、長い年月にわたって「連携・協働」することで成果を上げたことだった。(つづく)

中海テレビ放送特別番組「中海再生への歩み」 ギャラクシー賞報道活動部門大賞受賞

中海テレビ放送(米子市河崎、加藤典裕社長)が制作し、昨年11月に開局30周年記念特別番組として放送した「中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～」が、2019年度の第57回ギャラクシー賞(放送批評懇話会主催)報道活動部門で大賞を受賞した。同部門の最高賞である

大賞をケーブルテレビ局が受賞するのは初めて。報道機関が、市民と共に行動する新たな枠組みを生かして20年近く中海の環境問題に取り組んできた姿勢が評価された。制作に携わった関係者は、活動を継続し、市民にさらに親しまれる中海の実現を目指している。

中海テレビ放送は2001年1月から、中海を題材にした30分番組「中海物語」を毎月放送している。20年近く続いているこの番組が、大賞受賞の起点だ。

中海物語放送開始前年の00年、中海干拓事業の中止が決まった。中止は、開発から環境重視へと社会が変わるようになっていたことを象徴する出来事。同社の高橋孝之(44)が「時代の転換点にあたって中海の注目度も高まる時に、地域メディアとして何かしなければ」と、新番組制作をスタッフに呼び掛けた。

まずは中海に関わる地元の人たちの声を集めよう。1年間で延べ約200人が登場した。初回から現在までリポーターを務める同社の上田和泰さん(44)は「皆さんに話を伺って『中海をきれいにした』という強い思いがあふれていた」と振り返る。時には



大賞を受賞し、トロフィーと表彰状が贈られた(左から)古川重樹さん、上田和泰さん、高橋孝之会長、横木俊司さん、上田敏之さん

30分番組「中海物語」が起点

市民と水質改善活動20年

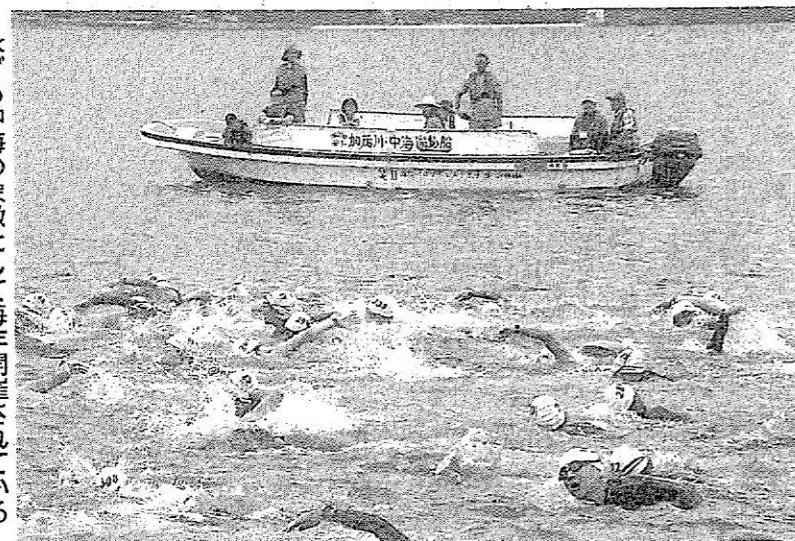
「泳げる中海」目標掲げ発信

自ら中海に降り、濁って視界が悪くなっている現状を、実感を含めて伝えた。

番組は02年1月に最終回を迎えた。しかし、これを契機として10年にわたる活動を迎えた。放送ジャーナリストで10年にわたる活動を迎えた。放送ジャーナリストで10年にわたる活動を迎えた。

民活動のつねりに感じられるようになった。06年には、番組を通して国や県などに働きかけるなどして、市民の手で中海をきれいにする「中海アタププログラム」がスタート。そして11年、「中海オープンウォータースタム」の開催にこぎつけた。

当初の目標を達成した今、水質改善の次の段階として中海の利活用が模索されている。「観光などによって中海が地域に潤いをもたらす場所を目指したい」と高橋会長は力を込める。



泳げる中海の象徴として毎年開催されている「中海オープンウォータースタム」2019年6月23日

中海アタププログラムの一環で湖岸清掃をする米子南高生徒。2020年7月



「中海再生への歩み」の一場面

市民とメディア力合わせ 地域の在り方考える機会に

ギャラクシー賞は、放送文化の質的な向上のために優秀な番組などを顕彰しようとして1963年に創設された。キャンペーン報道や調査報道などを顕彰する報道活動部門には2019年度、NHKや全国の民放から33の応募があり、6作品が入賞。その中から今年7月、「中海再生への歩み」が大賞に選ばれた。報道にとどまらず、20年近く市民と一緒に汗を流してきたことが評価された。

第57回ギャラクシー賞報道活動部門委員会の副委員長だった、「地方の時代」映像祭プロデューサーの市村元さん(77)は「市民と行政を巻き込んで地域の在り方を考える機会を提供した。人と人とを結び付け、力を生み出すという地域メディアの本来的な取り組みだ」と称賛する。

中海テレビ放送特別顧問の古川重樹さん(72)は「映像は古いほど価値が高まる、放送局の一番の宝。中海テレビにはそれがあって、こつこつと市民と一緒にやってやってくれた実績もあった」と評価。「メディアと市民が手を取り合っただけの問題解決に取り組んだ事例は、全国でも生かせる」と番組制作を主導した。

「中海再生への歩み」は、それまでに放送した中海物語約230本分をベースに、中海の環境問題における当時の証言や、新たな活動が芽吹こうとしている諏訪湖の現状、地域の未来を担う子どもたちに中海の大切さを訴えようと始めた環境学習などを追加取材して構成。中海の将来を在るべき姿を伝えた。

「番組が、これからも続く市民の皆さんの活動を後押しする力になれば」と、担当ディレクターで山陰ビデオシステムの鷲見崇さん(42)。中海テレビ放送の同番組プロデューサー、横木俊司さんは「受賞を励みに、これからも皆さんの活動に寄り添いながら、地道に番組制作を続けていきたい」と話している。

「中海大切に」思い次代へ

来秋、2万5千人一斉清掃計画

そばで支え、活動を後押ししてくれた中海テレビの存在は心強かった」と話す。

新田さんは、米子南高生徒ら若い世代とともに、環境フェアの開催運営に長年携わっている。「市民が中心になって地道に続けてきた取り組み。フェアの開催を通して、市民と行政との連携が深まり、中海を大切にしようという思いも次世代へ引き継いでいる」と手応えを感じている。

同プロジェクト理事長の内藤武夫さん(87)は、ヨットクラブの活動をきっかけに子どもたちと清掃を始めた。2003年に「中海クリーンクラブ」を立ち上げ、毎月第3日曜日の定例活動など、湖岸清掃を引っ張ってきた。

内藤さんは、2021年10月に市民ボランティア2万5千人による一斉清掃を実施することを次の目標としている。その一歩として現況を写真に収めようと準備。「中海を利活用する段階になり、皆さんにごみがない中海を見てもらいたい。そのために、1人でも多くの参加を」と呼び掛けている。

活動する市民

中海の環境活動には、多くの有志の市民がそれぞれの立場で関わっている。

中海再生プロジェクトの当初からのメンバーで副理事長を務める新田ひとみさん(70)は「みんなが本気で中海をきれいにならさないとダメだ。それを単なる密着取材ではなく、



市民ボランティア2万5千人による一斉清掃の計画を練る内藤さん(左)と安来市島田町

第57回ギャラクシー賞(報道活動部門)大賞受賞をお慶び申し上げます

- 株式会社 アイコム
- 株式会社 アイネット
- 株式会社 栄光電通
- 合同印刷株式会社
- 株式会社 山陰ビデオシステム
- 株式会社 大亜通信工業
- D N サービス
- 株式会社 ヒラシネットワークス
- 株式会社 朋栄
- 株式会社 ミカモ電気
- 米子無線電器有限公司

(順不同)